

編集後記

<特集の編集を終えて>

*現在の情報通信社会における私達の生活は、あらためて申すまでもなく、さまざまな電子情報ツールを抜きにしては語れない状況になっています。この特集号の刊行という行為一つについても、多くの情報の処理、表示、記録及び通信に依るところがまさに大きく、いわゆるITが現代社会の基本的活動の原動力となっていることを実感しています。

*薄膜は、このようなITツールの重要な構成デバイスに不可欠な要素の一つとして、常に大きな役割を担ってきました。LSI、液晶ディスプレイや記憶メディアなど、色々な薄膜がそれぞれのデバイスの機能発現にとってキーテクノロジーと言えます。薄膜はまた、エレクトロニクスに限らず、工具や機械部品などにおいても重要な構成要素と位置付けられます。

*当社グループでは、薄膜に関連する事業として、素材(スパッタリングターゲット材料など)及び機械製品(成膜プロ

セス機械や分析評価装置ほか)から受託解析サービスまで、幅広く種々のメニューを展開しており、市場のニーズにお応えすべく技術開発に取り組んでいます。

*本特集号の編集にあたっては、当社の薄膜分野における活動に関し、主に電子情報用の機能薄膜に焦点を当て、「成膜材料・薄膜デバイス」、「成膜加工機械」及び「薄膜分析解析装置」の三つのジャンルのバランスも考慮しつつ掲載記事などを企画しました。また、直接対象となる薄膜技術そのものだけでなく、周辺の関連応用技術などでもできるだけ含めることにより、当社の総合的な技術ポテンシャルをご紹介するように心掛けました。

*需要家の皆様はじめ関係各位には多少なりともお役に立てたものと期待しておりますが、読者の方々に十分なご理解を得られるような内容になっていたかなど、ご意見や感想をいただければ幸いです。

(上窪文生)

次号予告

<自動車用材料特集>

*自動車業界では地球温暖化対策として燃費改善による二酸化炭素排出量の削減への取組みが強化されており、燃料電池などによる新しい駆動方式の開発とともに車体の軽量化が進められている。一方、安全性の更なる向上への取組みも平行して強化されており、衝突安全性向上の観点からは車体の高剛性化への技術開発が加速されている。これらを達成するため各自動車メーカーとも新しい技術開発、品質の向上、コストダウンなどの課題に対する取組みを強化しており、素材供給メーカーに対してはさらなるVA提案が要求されている。

*このような自動車メーカーからの要求に対し、材料・加工・評価などの単体の技術開発では得られる効果に限界があり、需要家のニーズを詳細に検討し部品ごとに利用技術にまで踏込んだ材料開発、加工技術、評価技術の提案などを組合わせた技術開発を行うことが必須となってい

る。当社ではこのような考えのもとに鉄鋼材料、アルミ・銅材料、チタン、溶接材料・溶接機器などの各部門が連携をとり、需要家に喜んで頂ける新商品、新技術の開発に鋭意取り組んでいます。

*次号の自動車用材料特集号では、車体・足回り部品の軽量化、高剛性化を可能とする高強度薄鋼板(ハイテン)・棒鋼材・アルミニウム板材・押出材・鍛造材とともにこれらの加工技術、高速変形特性評価・成形シミュレーション技術、溶接技術について、また構造用材料以外にも小電力大電磁力用磁性材料、高強度化が可能な温間成形法に適した焼結部品用粉末材料についても最近の開発成果をご紹介します。当社が需要家各位に提案したい内容、需要家各位における具体的な期待効果を可能な限り定量的に提示することを念頭に編集いたします。ご期待ください。

(小宮幸久)

編集委員

委員長	佐藤 廣 士
副委員長	服部 重 夫
	吉川 克 之
委員	泉 博 二
	江藤 武比古
	於久 英 一
	上窪 文 生
	小宮 幸 久
	神保 淳 一
	杉井 謙 一
	中川 知 和
	松下 行 伸
	結城 滋
	<五十音順>
本号特集編集委員	上窪 文 生

R&D /神戸製鋼技報

第52巻・第2号(通巻第201号)

2002年9月1日発行

非売品 <禁無断転載>

発行人 佐藤 廣士

発行所 株式会社 神戸製鋼所
コミュニケーションセンター
〒651-8585
神戸市中央区脇浜町2丁目10-26
(神鋼ビル)

<http://www.kobelco.co.jp>

印刷所 福田印刷工業株式会社
〒658-0026
神戸市東灘区魚崎西町4丁目
6番3号

お問合わせ先 神鋼リサーチ株式会社
〒651-2271
神戸市西区高塚台1丁目5-5
(株)神戸製鋼所内
TEL(078)992-9764
FAX(078)992-9790